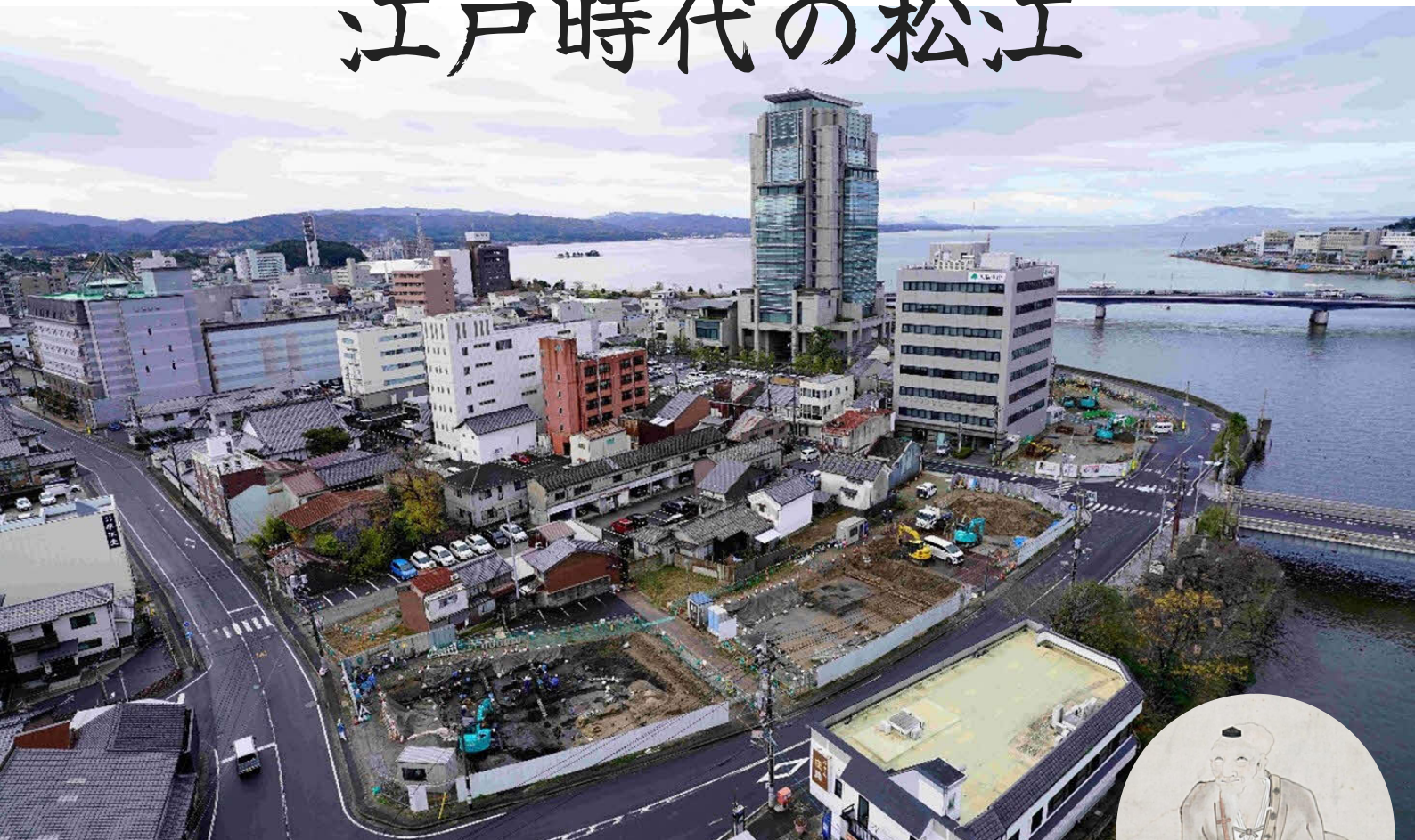


# 発掘調査と旅日記が語る 江戸時代の松江



大橋川河川改修事業に伴う松江城下町遺跡白潟地区の発掘調査では、江戸時代の町屋跡が確認され、町づくりの過程や町人たちのくらしが明らかになってきました。

また、江戸時代後期に日向国（現在の宮崎県）の巡礼者、野田成亮（しげなり）が書き記した旅日記『日本九峯修行日記』には、当時の松江城下町や松江市域の社寺・名所等が記録されています。

今回の講座では、発掘調査成果と歴史資料から江戸時代の松江の様子を読み解いていきます。



野田成亮自画像  
（宮崎県立図書館蔵）

令和8年 7月12日【日】

時間 13:30～15:50

対象者 どなたでもご参加いただけます

参加費 無料

二次元コードからお申込可能です▶



定員 50名（先着順、定員になり次第受付を締め切ります。）

会場 島根県埋蔵文化財調査センター

申込

「しまね電子申請サービス」に、県公式HPまたはweb検索からアクセスし、本講座の申請フォームよりお手続きください。

報告1「発掘調査から読み解く  
松江白潟の歴史」

報告者：東山信治  
（島根県埋蔵文化財調査センター調査第一課長）

報告2「巡礼者の旅日記に見る  
江戸時代の松江」

報告者：神柱靖彦  
（島根県埋蔵文化財調査センター調査第二課主幹）



松江城下町遺跡出土陶磁器